



第28回学習会を、平成23年4月8日(金)19:00~20:00福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

## 第28回目の内容

講師 重枝一郎先生(福岡市教育センター主任指導主事)

- 1 学級経営における「つまずき」の予兆とその克服
- 2 体験活動①「グルーピング・トラストアップ、フォール・ジャンプ」
- 3 ビデオ鑑賞
- 4 体験活動②「まちがいさがし」
- 5 実践交流(学級通信)

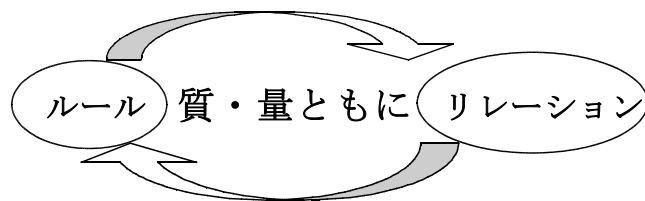


## 学級経営における「つまずき」の予兆とその克服

まず、その前に「スタート」が大切!!



### 最初の空気づくり



※教師のリーダーシップで「安心感」の確保

ふれあいの促進

まずは、教師と子どものリレーション  
そこから、学級に波及させる

### 「成功の循環」

関係→思考→行動→結果



### 「マスターマインドグループ」

2人以上の同じ目標をもった人の集まり。それらの人の中で行き交う、波長のあった思考。2つ以上の心がひとつにまとまるとき、思ったこともない味わったこともない、ステキなもうひとつの心が生まれる。

過去の成功者の中に、マスターマインドなくして偉大なことを成し遂げた人はいない。効果を考えると、マスターマインドグループをつくる価値はある。

関係の質の高さが結果の質を上げる

### 2大ルール

- ①人の嫌がることは言わない
- ②最後まで聴く

※2大ルールを流さないことが、子どもとのリレーションづくりになっていく

授業中のちょっとした「ざわつき」を流さない(ゆるやかに崩壊する)

授業で育成, 係活動で評価

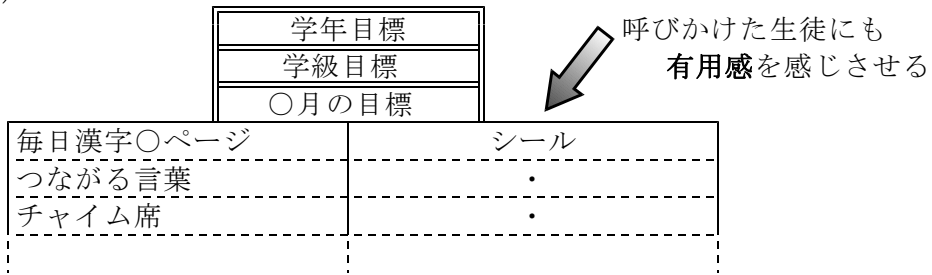
# 1. 「4つの経営」と「つまずき」の予兆

- (1) **基盤経営** 係活動をいい加減に取り組む  
【学級目標，係活動組織】 《取組の乱れ》
- (2) **授業経営** 発表しない，忘れ物が多い，話し合いをしない  
【各教科，道徳，特活の効果的な指導】 《学習姿勢の乱れ》
- (3) **集団経営** 思いやりのない言葉が飛び交う  
【生徒の実態把握，教師と生徒の人間関係】 《言葉の乱れ》
- (4) **環境経営** 机が並んでいない，棚が煩雑  
【掲示物，コーナー，学級相互の連携】 《教室の乱れ》

乱れた姿が，一つでも少しでも見られると，  
「学級経営のつまずきの予兆」とすると『気づける教師』

# 2. 「つまずき」克服への取組

① (基盤)



② (授業)

道徳の指導内容  
プリント掲示  
朝の会，帰りの会の感話（感動する話）とコラボレートする  
**※既習を生かす取組**

③ (授業，集団)

こんな話し合いができるようになりたい



教師の評価  
～さんの話し方は，とても良かった  
～くんの反応は，とても良かった

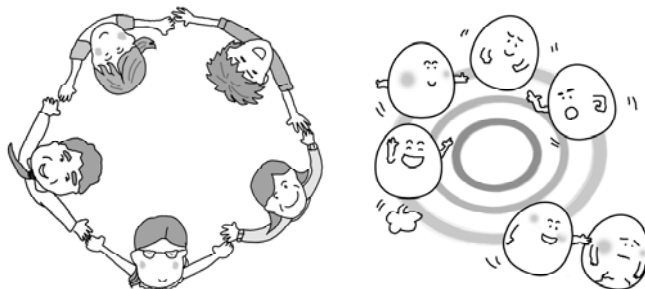
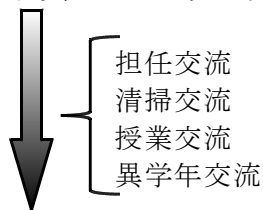
ほめて強化して， **ルール**

ペア { 他者説明  
          苦手が先ルール

**相手意識**を強くもたせる

④（環境）こだわり ※最初からあたりまえに

⑤職員チームの勢力資源



相手意識を強くもたせる

解説

◎実践なくして得るものなし

2007（平成19）年11月にスタートした「風土会」も、おかげさまで4年目に入りました。

「風土会」という会名は、学校に新しい「風」をおこし根付かせていきたいという願いと、学校風土づくり（学校文化の醸成）にこだわり、そのために教師が学び続けていくという意味です。

「風土会」でこだわっているのは、「実践」と「変容」です。「学級風土」「学年風土」「学校風土」を創っていくための「ビジョン・理論・実践」を学習しています。

「教育は人なり」と言われます。「学校」を良くするためのスタートを切るのは、やはり、「教師の日々の実践」なのです。私たち教師は、「実践なくして得るものなし」と定義し、チャレンジすることを楽しみましょう。

◎マスターマインドグループ

風土会で学んだ理論やフレーズ等は、上手にいいとこどりして、「実践」してほしいという願いがあります。そのための、毎月1回の自主的な学習会です。

風土会に参加された先生方は、以下のような嬉しい感想を寄せて下さいます。

- ・はじめて参加しました。先生の講話も興味深く聴かせていただきましたが、何より参加者の先生方の熱心な思いのようなものに胸がいっぱいになりました。こんな風に学びのある集団に身を置き、心地よく、これからのエネルギーをいただいた気がします。私も・・・また、ポジティブにがんばります。
- ・風土会の存在をもっと早く知りたかったと思いました。お話も素晴らしかったのですが、実際に他の先生方とグループワークができ、楽しかったですし、実践に生かせそうだと思いました。何より参加されている先生方が生き生きしていることも、とてもうれしく感じました。
- ・久しぶりにやっとなることができて、嬉しい思いでいっぱいでした。今日も「人の話を聴けば、人生の80%成功する」という言葉が心に残りました。ここ最近、色々と思うことがあって、何かヒントをもらえたと思います。
- ・今日も目から鱗の内容でした。いつもいろいろなことを考えているのですが、風土会で学ぶことで、その考えに筋道ができるように感じました。自分がやってきたことがまとまり、これからやる筋道が見えてくるような・・・。味のある先生になれるように頑張りたいと強く感じました。
- ・きっちり1時間で中身の濃い勉強になりました。まず、このような学習会を続けてあることを尊敬します。家に帰って勉強します。学校で生徒に向けて、アウトプットします。

新年度は、先生方も子どもたちも気持ちが新たになり、チャレンジ精神いっぱいです。この気

持ちを持続するためにも、「マスターマインドグループ」の存在は、大きな支えになると思います。

今回の風土会は、中学校の入学式の日という慌ただしい日程だったにもかかわらず、たくさんの先生方の参加がありました。特に嬉しかったことは、「風土会」を始めた頃から参加していただいている先生方が、初任者等の若い先生方を誘って、一緒に参加して下さったことです。ベテラン先生とフレッシュ先生が、一緒に学び合う「場」の雰囲気は、ポジティブでさわやかな空間でした。

何かを長く続けていると、最初は予想すらしていなかった「おもしろい現象」が起きるのだと、感慨深い気持ちにもなりました。

この「風土会」も、ひとつの「マスターマインドグループ」です。それぞれの学校でも、「マスターマインドグループ」があれば、個々の先生方の前向きなエネルギーの源になるのでは。教師の協働性とは、このようなシンプルな発想から生まれるのかもしれませんが。

「マスターマインドグループ」という発想は、教師集団にも生徒集団にも、両方にあてはめることができます。

教師として自分が実感することを、子どもにも率直に「語り」ながら、子ども同士をつなげるために、教師がリーダーシップを発揮する必要があるのです。

## ◎スタートが大切

学級経営で、まずスタートに取り組むことは、「ルールづくりと関係づくり（ルールとリレーションを集団体験から同時に育てること）」です。

関係の質が高いと、思考の質も高くなります。この循環が大切です。

教室において、「関係の質」を高めることは、学力にも関係します。実際に、学力が上がるという効果も検証されています。（例えば、河村茂雄「データが語る学校の課題」図書文化、2007等）

「ルールづくりと関係づくり」は授業中に意識的に行います。係活動や行事など、あらゆる教育場面を関連付けて、相乗的に行います。

そのときに、「教師の語り」は欠かせません。なぜ、ルールが必要なのか、人間関係が重要なのか、考え方を教えます。教師の思いやビジョン等を、熱く語ります。それを、学級通信でも発信して、保護者にもアピールします。

## ◎「気づける教師」がもつ、学級経営における4つの視点

学級経営を何となくするのではなく、教師自身がチェックする視点をもっておくことで、「気づける教師」になれます。日常的に、4つの視点で自分の学級をチェックするのです。乱れた姿がひとつでもあれば、それは、学級崩壊への第一歩につながるのです。4つの視点のどこかから崩れていきます。「崩壊はゆるやかに始まり、急激に進行する」のです。

「基盤経営」では、学級目標が形骸化しない取組をします。

「授業経営」では、習得したことを活用するサイクルをつくります。

例えば、道徳でした内容を学級掲示したり、朝の会、帰りの会や学級便りとコラボしたり、既習を生かす取組をします。

「集団経営」では、話の聴き方や反応の仕方などを、全体の前で伝え、評価することで、暗黙のルールになるように仕組みます。相手意識を強くもたせることが大切です。「こんな言葉で話し合っているからいいな」というように、子どものやりとりを全体に伝えます。授業中にペア学習を仕組むことも有効です。その場合、分かっている人が一方的に話し、分かっている人が聞くだけという状況に陥りやすいので、分かっている人に先に話をさせるというルールを決めておきます。そして、発表するときには、相手が何を言ったかを言わせるようにします。そうすると、相手の話をよく聴くようになります。また、自分の考えに、相手の考えが加わり、思考が広がります。

「環境経営」では、まず、教室環境にこだわります。後ろの棚が整理されていないことに教師が気づいたら、全体の机の配置を「前」にします。棚がよく見えるようにして教師がダメだと思いう状況を生徒に意識づけます。そして、教師が棚の整理にこだわっていることを気づかせ「これがあたりまえ」という状況に

するのです。またクラスのために係活動をしている生徒に「有用感」を感じさせることが大切です。「この係をあなたがしてくれているから、こんないい状態になっている」という感謝の風土をつくり、「暗黙のルール」にするのです。このクラスでは、「棚が整理されているのはあたりまえ」という「暗黙のルール」です。そうすると、ルールが定着します。最初は教師のリーダーシップが必要です。ルールが定着する過程では、生徒がルールを意識するようなアピールが必要なのです。

## ◎「環境経営」を徹底させる、教師の協働

教師が「個」で取り組んでもうまくいかないことが、教師チームで取り組むことで、うまくいくことがあります。また、協働で取り組むことで、先生同士に「チーム」という意識が生まれます。担任王国ではなく、学年の子どもは学年教師チームで育てるという意識です。

### ○その1：こだわり清掃

学年が5クラスあったとします。まず、学年教師が短時間でミーティングをしておき、5種類の「各自のこだわり」を確認します。例えば、「たな」「黒板」「ぞうきんがけ」「机やいすの足のわたゴミ」等・・・

そして、各担任が全クラスの教室掃除をローテーションします。

「君たちはどんな風に掃除している?」「私は・・・にとってもこだわっている。なぜなら・・・」



「教師側の目標の共有」「生徒は考えが広がる」



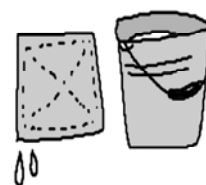
「こだわりの場所(5カ所)について、意識が高まる」



「先生たちの仲の良さ、それぞれの先生の持ち味を理解」



「子どもによい影響(学年全体での清掃の徹底)」



こだわり清掃を全クラスに広めます。教師がクラスを交換して、「こだわり」を伝えていきます。それぞれの先生が、自分の持ち味でいい話をします。感話(感動する話)をしたり、自己開示したりするのです。

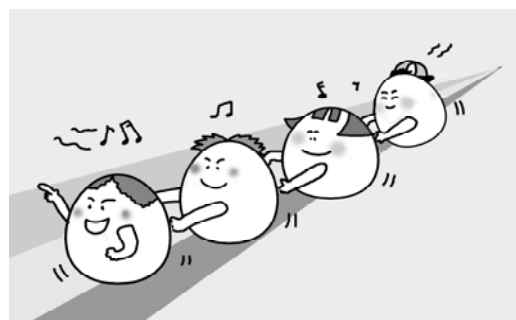
掃除だけではなく、朝の会、帰りの会や給食指導を含めて、担任交流をします。ローテーションを組みます。そうすると、教師の意識も子どもの意識も高まります。担任交流をすることが、「チーム」を生むための「場の設定」になるのです。

### ○その2：異学年交流

中学校では3年生、小学校では6年生、つまり最高学年が後輩に手本を示します。先輩の姿からよい影響を受けるために、ビデオを作成しておきます。先輩が掃除をしている姿や授業を受けている姿など、一日の学校生活や、後輩に伝えたいことをビデオにするのです。

そうすると、よいやり方をすぐに覚えます。これも、「あたりまえ」になっていきます。

掃除の場合は、ビデオを見た後、実際に掃除場所を上級生と半々で入れかえて、3年生が手本を示しながら一緒に清掃させます。そうすると、すぐに「あたりまえ」が身に付きます。



## ◎「集団経営」を徹底させる、トレーニング

### ○その1：トラストフォール

重枝先生の前任校（千代中学校）では、重枝先生赴任当時、生徒たちは先生の話を書くそぶりも見せない状況でした。（今は違います！！生徒たちは人の話をじっくり聴くことができる集団に成長しています）

そこで、相手意識を強くもたせる演習（トレーニング）をたくさん取り入れました。例えば、「握手で自己紹介」「トラストアップ、フォール」「人間知恵の輪」「タイタニック」「ジャンプ」「肩もみ」など……。即効性はありませんが、少しずつ集団の教育力が発揮され、変容が見られました。

全校集会の時に、重枝先生はある生徒を前に出し、「トラストフォール」をしました。生徒が目を閉じて、後ろに倒れるのを、重枝先生が支えます。その生徒を支えるために、自分が身体をはって、下敷きになるようにして支えます。そして、その生徒に気持ちを聞きます。

「どうだった？」「怖かった」

「でも、受けとめてもらえて嬉しかった」

このように、気持ちを交流することが「エンカウンター」です。「エンカウンター」というと、名前をきいただけで（カタカナだし……）拒否反応を示す先生方もいらっしゃるようですが、難しいことはありません。本音の交流をすることが、エンカウンターなのです。

「トラストフォール」は、信頼を実感する体験トレーニングです。目を閉じて後ろ向きに倒れるのは、やはり「怖い、勇気のいる行為」です。必ず受けとめてもらえる、支えてもらえるという、相手への信頼感がなければ、一步踏み出せない行動です。また、支える方も、絶対に受けとめよう、相手を守ろうという気持ちが働きます。

「信頼」という言葉を使うことは簡単なことですが、それを「体験」レベルで実感させることは、生徒に強い印象を残します。



（トラストフォール）

### ○その2：グルーピング

単純に教師が見せた指の本数で、しゃべらずに集まります。

早くグループができた子どもたちは、得意げな表情です。それに対して、グループに入れずに立ったまま、取り残された子どもたちの表情は、不安げです。教師は、その事実から子どもたちに、考えさせるのです。

「グループに入れなくて困っている人に、あなたはどのようにする？」

「自分たちは早くグループができたけれど、それでいいの？」

「これが自分のクラスの状態だったら？」

そして、もう一度グルーピングをします。さすがに今度は、誰も早く座るグループはいません。グループに入っていない人がいないか、まわりを気にする雰囲気が生まれています。

そのときに、「こっちにおいで」と、手招きして呼ぶ生徒が出てきます。手をつかんで連れて行く人も出てきます。その行動を、教師は評価するのです。そして、感情交流です。呼ばれたときの気持ち、手をつかんで連れて行ってもらったときの気持ちなどを発表してもらいます。

このように、グルーピングを通して、感情を伴う体験をさせることで、相手意識をもつ生徒を育てるのです。これも、「集団経営」です。また、集まったグループで縦に並んで「ジャンプ」をするなどの体験を入れると、楽しみながら、グループで活動するよさを実感できます。「右・左・前・後」など、教師の指示でジャンプします。慣れてきたら、「右」と言われたら「左」に、「前」と言われたら「後」にジャンプ！



※「風土会」に集まった先生方も体験しました。大人だって、楽しい雰囲気にになりました！

## 「聴くトレーニング」：「背中でも感じよう」「聖徳太子ゲーム」

### ☆ねらい

- 正しく聴くことの重要性に気づく
- 相手の気持ちになって聴くことの重要性に気づく

「背中でも感じよう」：背中に声をかけ、頭・腰・足元のどこに向けられていたかを当てる。  
「聖徳太子ゲーム」：一文字ずつ分担して、声を出す。どんな単語か当てる。  
※それぞれの活動後に、簡単な振り返りを入れる。

千代中学校3年生の授業の様子をビデオで見ました。

### ○「正しく聴くことの重要性に気づく」

ビデオの中で重枝先生は、熱く語っています。「心と目と耳で聴くことができれば、人生の80%は成功できる」ことや、「聴いているつもりでも、正確に伝わっているかどうかはわからない。聴いていても、指示を取り違えることはよくあること。それでは、どんな風に聴けばいいのか？聴くときに一番大切なことは、相手の立場に立つこと」

そして、こんな風に話は続きます。

「今はみんなが、先生の立場に立っている。それはどういうことかということ、全員が先生の方を向いている。それでは、全員大きくなずいて下さい」「わかった？」と重枝先生が言うと、クラス全員が大きくなずいています。「ウソでもうなずいてくれたときに、伝わっていると実感できる。両方のためになる。これがコミュニケーション。相手の立場に立つということ」

### ○「ハーリスの3ない」「ボディリスの3く」

人の話を聴くときの約束。ハーリスはハートリスニングの略で、心で聴くということ。ボディリスは身体を使った聴き方です。

ハーリスの3ないとは・・・人が話しているときには

しゃべら	ない
さえぎら	ない
否定し	ない

(違うと言わ)

ボディリスの3くは・・・人が話しているときには

うなず	く
相手の方を向	く
メモを書	く

そして、生徒の成功体験を思い出させています。「職場体験での約束事は、ボディリスだけががんばってきなさいと決めましたね。コミュニケーションを良くするために大切なことだからです。そして、この約束事が守れたから、君たちは事業所の方々にかわいがってもらえ、ステキな経験になりましたね」

### ○「背中でも感じよう」

まず、一人の生徒を前に出し、重枝先生と二人でモデルを示します。

重枝先生に背中を向けて立たせ、

「今から背中か頭か足に向かってしゃべります。どこに言葉を発したでしょう？」

「うわあっ」「どこ？」生徒が「足」と答えて、「正解、拍手」

さらにもう一度やってみます。

「どこ？」「頭」「不正解！よく感じろ。もう一回。」「背中」「正解」というやりとりが行われます。重枝先生いわく、教師と生徒のリレーの時間です。

重枝先生が大事にしている、お楽しみの時間です。先生自身も楽しんでます。それは、敏感に生徒も感じています。そういうところから、生徒と教師の絆が生まれるのです。信頼関係はこ

ういうところからも生まれているのです。

その後、生徒全員が2人組をつくって、活動しています。ビデオの中の生徒たちは、生き生きと活動しています。そして、簡単な振り返り。

### ○「聖徳太子ゲーム」

4人の生徒を前に出します。一人一文字を同時に言います。4つの言葉で単語になっています。それを聞き取るゲームです。集中して、耳を研ぎ澄ませて「聴く」活動です。

「せーの」「×○□△」。一瞬です。何と言っているのか？

「わかった人？」手が挙がって答えます。「おはよう」「正解です。拍手！」

今度は5人の生徒を前に出します。同じ要領で繰り返します。そして、簡単な振り返り。

ここまでの活動での重枝先生の意図は、3つありました。まず、「聴く」についてですが、集中してよく聴いても、伝わらないことがある。ましてや、聴く準備がないなら当たり前前に伝わらない。授業規律にも関連させて、生徒に考えさせたいという意図です。ここでのポイントは、相手の立場になって聴くということでした。

さらに、デモンストレーションですが、重枝先生が前に出した生徒の選出にも、意図があります。なかなか集中ゾーンに入れない生徒を半分、入れているのです。クラス全員のルールにするために、振り返りで多くの生徒が共感できるようにと考えてのことです。

ひとつひとつの活動後に必ず振り返りを入れたのにも意図があります。すべての活動には意味があり、活動後に先生から何を学んだのかを問われる。だからこそ生徒は、意欲的に活動に参加できるのです。

このように、教師側に明確な考えや意図があり、それを気むずかしい雰囲気ではなく、さわやかで楽しい雰囲気のなかで学ぶことができるのは、理想的です。

## 「まちがいさがし」

グループによる課題達成を体験することで、協力することの意義を実感し、自分の役割や行動を考えさせることができる TR。普通の「まちがいさがし」よりも、コミュニケーションを増やした発展バージョン。

- ①グループ（5～6人）に、白紙1枚、鉛筆（1～2本）、個人回数券（人数分）、フリー回数券（20－人数）を配る。
- ②シートAを廊下に掲示する。（グループの数だけ、または、拡大したもの1枚）
- ③課題とルールを説明する。

課題：AとBの絵では、10の間違ひがあります。みんなで協力して見つけましょう。

※Aを見る人、Bを見る人の担当を決める。（AとBの両方のシートを同じ人が見に行くことはできない）

ルール： ①見に行くときは、回数券を先生に渡す。

②見に行くときは、1人で行く。

③見るときは、メモをしたり、しゃべったりしてはいけない。

※廊下のシートは、前半はAのみ、後半はBのみに時間を区切って、貼り替える。

- ④活動を始める前に、作戦タイムを2～3分設定する。
- ⑤制限時間を決め、実施する。
- ⑥残り5分となった時点で、見つけた間違ひを7つに絞り、課題シートに書かせる。
- ⑦答え合わせをして、振り返り、まとめる。

### ○作戦タイム

5～6人グループをつくって、Aの絵を見に行く人、Bの絵を見に行く人を決めます。本当は、個人回数券、フリー回数券はグループに合わせて20枚配布されます。（今回は時間がなくて、



省略されましたが・・・)つまり、1人4回程度、絵を見に行けるということです。(回数も作戦で自由です)

Aの絵を見に行く人を3人、Bの絵を見に行く人を2人決めました。それぞれに、どこを中心に見に行くかの分担も決めます。大人でも何だか、ワクワクします。

### ○ゲーム開始

まずAの絵を見に行きます。海辺でスイカ割りをしている、かわいらしい絵です。たぬきやうさぎ、くまやねずみがあります。貝殻やねずみのしっぽがあやしそうです。何となく予想しながら絵を覚えます。席にもどったら、見てきた絵を再現します。最初に見に行った人がグループでどれだけ共有できるかがポイントです。まずは、グループ全員で全体像をつかむことが大切なのです。**(これは、教科の授業や部活の指導で教師が生徒とめあてを共有するときと同じです)**

えんぴつが2本しかないので、書いている人に「こんな風だったよ」と伝えて描いてもらったりもします。たくさん覚えて描いてくれた人には「わ～、すごい!」「そうそう、ここはこうだった」「次はここを見てきて」など、自然にチームワークが生まれています。時間がもったいないので、1人がもどいたら、「次の人、行って」と声をかけあい、夢中でゲームに没頭しました。

時間がきたら、Bの絵を見に行く番です。「ここらへんがあやしそうだね」とお互いに予想します。「わかった、ここここを見てくるね」会話がはずみます。

「やっぱりここが違う!」「当たった!じゃあ、次はここも見てきて」「は～い」すっかり、チームになっています。

### ○グループで相談

まちがいは全部で10個あります。その中で高得点と思うまちがいを7つ選びます。

さあ、この10個の中で、どのまちがいが高得点だろう???お互いに意見を出し合います。「やっぱり、これは簡単だね。すぐみつけれられるよね」「そうそう、すぐわかったから、これは外しましょう」「これは?結構、わかりにくいかも」「確かに、これはひねってますよね。じゃあ、まずこれを選びましょう」「私、記入しますね」「お願いします」

こういう会話が生まれています。その場ではじめて会った同士でも、ゲームを通してすっかり打ち解けています。この雰囲気は非常に心地よいものです。

**(これは授業での話し合い活動につながります)**

### ○答え合わせ

さあ、答え合わせです。正解だと、思わず笑顔で拍手!!大人でも盛り上がります。予想が外れると、ガッカリ・・・しかし、勝ち負けは別として、夢中になって楽しみ、チームで協力できたことに、大きな満足感があります。さわやかなムードが生まれています。

### ○体験した感想

このゲームには、チームワークをつくるさまざまな仕掛けが入っています。例えば、作戦タイムや話し合いが入っていること、回数券があること。回数券があれば、かならず全員が参加しなくてはならないし、使い方も工夫できます。作戦をたてる過程で、リレーションができます。協力体験は大人にとっても心地よいものです。協力して一緒に何かを成し遂げる体験が、これほどまでに満足度が高いものかと、体験してみてわかります。

今回の風土会でも、学習会の最初と最後では、場の雰囲気がまったく変化していました。4月は入学やクラス替えがあり、学級の雰囲気もよそよそしい頃です。クラスの雰囲気があたたかく、安心感のある支持的風土をつくるためにも、ぜひ、それぞれの学校で取り入れてほしいお勧めのエクササイズです。



☆ 今回のキーワード ☆

- 「成功の循環」関係→思考→行動→結果→関係・・・・・・・・
- マスターマインドグループ
- 最初の空気づくり
- 2大ルール：①人の嫌がることは言わない ②最後まで聴く
- 4つの経営：①基盤経営 ②授業経営 ③集団経営 ④環境経営



♪学習会に参加された先生方の感想♪ (参加人数 40名)

- ・4月から初めて、学校に勤務しています。右も左もわからない状態で毎日を過ごしているのですが、今日参加して、これから学校で子どもたちを育てるために、がんばっていこうという気持ちになりました。学級づくりについてはもちろんですが、一番は、ベテランの先生、若手の先生を含め、子どもを良くしたいという思いをもった先生たちが、こうやって集まって学んでいる姿を見ることができ、嬉しかったです。
- ・初めて参加させていただきました。大学を卒業したばかりで、自分がどのように子どもたちと接していけばよいのかわからずに不安ばかりでしたが、本日、風土会に参加させていただいて、今後の自分に少し見通しがもてたように思います。また、次回も参加させていただきたいです。  
(→フレッシュ先生、風土会で一緒に学びましょうね。モチベーションが上がってくると、嬉しいです)
- ・若い先生方に声を掛けたところ、たくさんの先生が参加してくれました。久しぶりに重枝節を聞き、大変勉強になりました。ありがとうございました。  
(→ありがとうございます！！風土会に新しい風が吹いたように感じました。風土会に長く参加されている先生やベテランの先生が、若い先生を誘って下さると、学びの輪が広がります！！)
- ・自分が活動をするのは苦手なのですが、実際に体験すると、どう感じるのかがはっきりとわかりました。活動中に重枝先生が、何を考えながら、何に気を配りながら実践されているかをお聞きできたので、真似しようと思いました。  
(→「学ぶ」原点は「まねる」です。教師の意図を知ることや、自分がまず体験してみることに、すごく大切なことですね)
- ・実際にエンカウンター（エクササイズ）を体験することができて、とても良かったです。生徒の気持ちが良くわかりました。わかっているつもりのもので、整理整頓して、理論的に説明してもらえて、よかったです。
- ・初めて参加しました。学級開きをするときのポイントがよく理解できました。グループワークトレーニング等の実践も工夫されていて、今後、学級で実践したいと思います。次回も参加させていただきます。
- ・4月の学級開きにピッタリだったと思います。普段、自分が経験上、いいと思って実践していたことを理論的に裏付けていただいた感じで、とてもためになりました。一言で言うと、とてもおもしろかったです。中学校でも小学校でも通っている筋は同じだと感じました。裏を返せば、小学校で身に付けさせきれていないのだと、改めて反省しました。  
(→小学校の先生が2名、参加されました。高校の先生も1名、参加です。さまざまな先生方と交流できる場になりたいです)
- ・初めてこの会に参加しました。厳しくすることが大切と思い、そのように生徒指導をしてきましたが、もっと、風土会で学んだような実践を取り入れていくと、生徒を惹きつけることができる！！と思いました。もっと、グルーピングなど知りたい！学年集会や自然教室での実践が知りたいです。  
(→待っていました！！こんな先生を！！生徒指導にぜひ、取り入れてほしいという「夢」をもっています。予防・開発的な生徒指導、ビジョンをもった先手の指導を広めて下さい)